

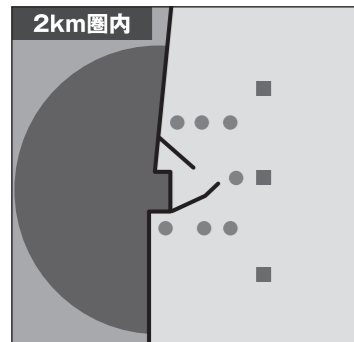
福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.09

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

海域モニタリングの強化・拡充

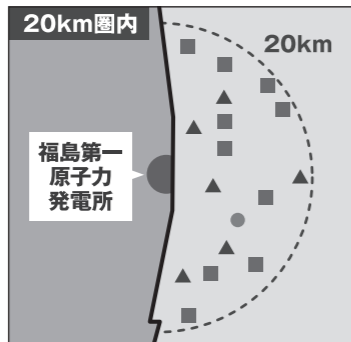
福島第一原子力発電所の事故後、国・福島県・東京電力で分担して計画的に海水や海洋生物中の放射性物質を確認しています。ALPS処理水の海洋放出にあたり、海水や海洋生物の現在の状況を把握するため、当社は2022年4月から発電所近傍や福島県沿岸の海域においてトリチウムを含む放射性物質のモニタリングを強化・拡充しています。海域モニタリングは第三者による測定・評価も実施しており、11月には国際原子力機関(IAEA)ならびにIAEAから指名された第三国(フィンランド・韓国)の専門家が来日し、採取した試料の分析結果を評価いただく予定です。

● 従来の測定箇所 ■ 新たに採取地点を増加した箇所 ▲ 採取頻度を増加した箇所



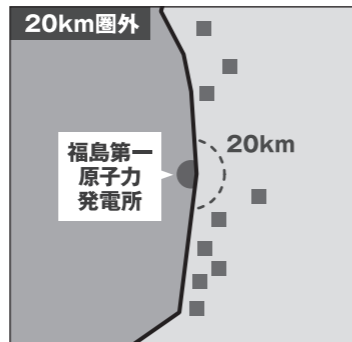
トリチウムの採取地点の増加

〈海水〉
7カ所 ▶ 10カ所



トリチウムの採取地点・頻度の増加

〈海水〉
月2回 ▶ 週1回
〈海水・魚類〉
1カ所 ▶ 11カ所



トリチウムの採取地点の増加

〈海水〉
0カ所 ▶ 9カ所



測定試料採取の様子

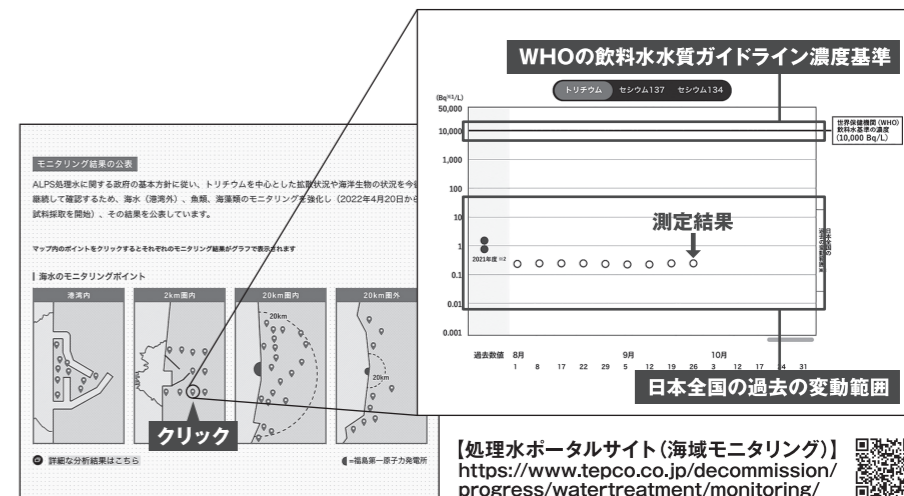
皆さまからの声におこたえします

Q どこを見れば海域モニタリング結果は確認できますか？

A 東京電力ホームページ内のALPS処理水に関する情報をまとめた「処理水ポータルサイト」で当社が実施している海域モニタリング結果を確認できます。

地図上の採取地点をクリックすると、グラフでモニタリング結果が表示され、過去からの推移を一目で確認できます。

また、グラフには世界保健機関(WHO)の飲料水水質ガイドラインに定められたトリチウムの濃度基準(10,000ベクレル※1/ℓ)や日本全国の過去の変動範囲※2を併せて表示していますので、測定結果と比較いただけます。



※1 放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位
※2 2018年4月～2020年3月のトリチウムの分析結果(0.043～20ベクレル/ℓ)

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>

モニタリングについて動画で解説しています
▶[海の安全はどう確認するの?]
https://www.youtube.com/watch?v=ARapxNS_H_t0

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22